

地方大槩集

內閣文庫			
函	冊	號	類
一八二	一五	三二七九	和書
架	冊	號	類

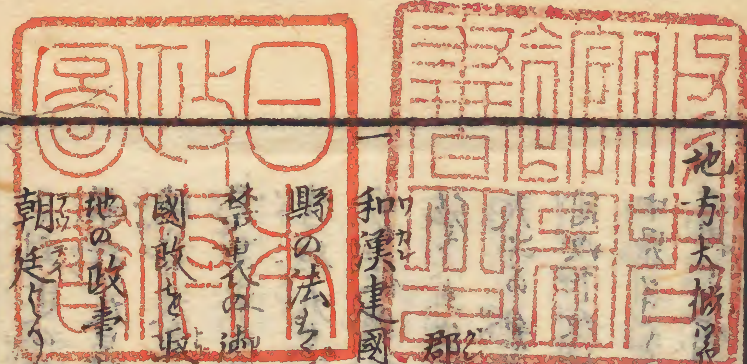


史

內閣文庫		
番號	和	32279
冊數	15 (2)	
函號	182	173



閣 32



地方大抵漢書集卷之五の郡縣を論ずるに於て是を以て

郡縣封建を西洋各國政體之事と云ふに似たり。加藤高文洋纂輯

郡縣封建を西洋各國政體之事と云ふに似たり。加藤高文洋纂輯

和漢建國の大法三つあり。其を郡縣と云ふ。一は封建と云ふ。郡

縣の法を大正に統と云ふ。其の年限あり。公家任官也。其

朝廷より御構をききり。皇國の上古を。國を小君長有

地方大抵漢書集卷之五

賜し是を子孫傳し此家領地のむ文官たる下めの
任を應たし人々大將小命を兵士を指揮し軍陣小
臨しの藤原氏外戚を以て改權を擅し其族
人小阿多を卿相の位を登り事を得ん百官も其職を無
々かく將帥の任を源平も家不限る様ならず以て武門乃
稱是より始まる其後四十九代

光仁天皇五十九代

桓武天皇の御宇より軍事未續き天下の民空弱き者
を農を官と勇壯を名と武事を調練し右兩家の幕下
小属し源氏の家人平家の家人を各黨をする小至り兵
農漸く其貞觀延喜以来百度廢弛上下懸隔し諸國の

兵士軍功を以て爵を賜り衛府の官左兵衛右兵衛左衛門を

稱し武士の名始り發り其勢次第小強し其上佛法

皇國も渡りし以後兩代々寄附地等是は以て其社領道

強大なり其僧指祝國司の下知を用ひ長補小至り

冊を給し兵を集め王命小極奉り我侯の振舞是は

其後三十一代

後三條天皇より惡弊を所改正有るなり種々衣襟

を懐くを承保し天仁より諸庄園天子に充満し

宇外の支配は所僅小一二分なり必司を任國の就は

其國の豪族武士を自代し假小其國政を進退致さぬ武

家の勢益隆大なり。其の末、
 鳥羽法皇備後公平忠盛を罷遇在り。刑部卿たり。昇
 殿を以てり。其子清盛平治元年信賴の輩を平定せり。官
 我罷祿其一门を專り。其身大政大臣に經上り。萬機の政
 を掌握す。平家の知行三十餘國。庄園五百餘所。及
 有り。是より領地の年貢を家人に取立させ。右目代をも
 用ひて。事不成り。以時平實源賴朝。
 後白河法皇の院宣を奉り。本管義仲を遣討し。平家の一族
 を西海に滅し。初、鎌倉幕府を開き。日本惣追補使征
 夷大將軍に任し。諸島の武士を率。且指揮し。後、自相摸
 武藏上総下總安房伊豆信濃越後等々領り。たれども。

朝廷も平實不捨置られ。大田百町を給り。高領するを
 豊後國を下さる。國家の大權武家を得。國司の外も
 守後を置き。
 禁裏の御料をす。公家の庄園も地頭を置き。その取
 締り致さぬ。兵糧米も。權門勢家の領地を論じ。以
 段外も平實を出入せ。西の家人を遣り。領地を増し。國
 宣願の催し。怨緒。郡縣の制殆廢絶。九十五代
 後醍醐天皇。北条高時。暴横を逆鱗。中興の御企あり
 一。武家の心を收めんとす。足利兄弟も武藏下總幸陸遠
 江を賜ひ。新田兄弟も。所播磨駿河。越後を賜ひ。南正成も
 播磨河内和泉を賜ひ。其外軍中の甲し。一々國或は五

六箇庄を賜り。既封建の勢を催す。

其後足利將軍家の時不_レ至_レ。海内の政皆其掌握小
歸_レ。其家人の切_レり多_ク。國郡を無_ク。守後職_レ。先其一族
子_レ。餘倉の管領足利左馬頭直義_ノ。関八州陸奥出羽を領_ス。
斯波治部少輔義時_ノ。越前美濃尾張を領_ス。其家臣多_ク。
細川頼春_ノ。讃岐河波攝津丹後を領_ス。畠山基國_ノ。河内
紀伊越中を領_ス。大内政弘_ノ。安藝因防長門豊後を領_ス。
赤松圓心_ノ。山名宗全_ノ。但馬播磨備前伯耆因幡美作石見を
分領_ス。京極六角氏近江出雲隱岐能登を領_ス。一色氏丹
後を領_ス。土岐氏美濃中邊郡を領_ス。武田村上諏訪等の
諸家。甲斐信濃を領_ス。今川範忠遠江駿河各河を領_ス。西

國子々大友河野東國子々佐竹結城千々子。其國々を領_ス。必
司の任官逐_レ不_レ廢絶_ス。

禁裏仙洞女院官方の御領を除去。天下の租税全_クを後職
が得_ル。祿を_レ。始_メ封建の形を顯_ス。

是_レより後京都將軍義政公の時不_レ至_レ。群雄黨を治_ス。其領國小割
據_ス。足利家の政令も不用_ニ。陪臣も_レ。諏訪村よ_リ。武田。富樫
の長尾。大友。北条。河内。の_レ。好。赤松の浦上。大内の陶。京極
の深井。土岐の府藤等。戰爭掠奪天下大_ニ。劫_ス。
五室の衰弊も_レ。不_レ至_レ。檢校も_レ。か_レ。不_レ至_レ。
正親町天皇の御宇。永祿元龜の頃織田氏斯波の陪臣も
不_レ至_レ。近畿十八箇を_レ。事定_ス。

朝廷も奉りて、禁裏に造管ありしに、其初平を以て、明智光秀が為
 不弒されしを、臣羽柴秀吉、毛利家と和を結し、中國と
 り馳上り、織田の一族諸臣を指揮し、山崎の戦、逆臣光秀
 を討つ。是より羽柴民の威名、遠近に傳へ、遂に四方を
 討略し、降るもの之を拒む。逆ふ者之を討つ。數年して
 海内を平均し、諸臣を各國に封じ、既而封建の形を成す。
 是より後

後陽成天皇の御宇、慶長五年八月、關ヶ原の役、一々、裏
 宇摩一統を降せし後、大坂高城以前、隨從の士を藩
 代と稱し、藩城を後、降服の士を外、藩代八千二百三家外

様八十六家、同門の士十八家、賓禮の士五家と、又、各別あり
 日本石高二千八百拾九萬石の内、二千萬石を忠勤の大石
 五萬石と、是を松領と稱し、八百九萬石を將軍家の御封と
 唱へ、此封建の世なり。

右者、皇國の大沿革なり。古今政令の變遷、租税の隆減、
 其所以なり。至政之關係は、人々、其大概を辨する事、後がれ。
 かく、其の巻首に記し、尚歴代の必史を闡す。其の委陳
 を知る事なり。

因に記し、右郡縣封建の外、西洋より、貴族會議、其
 家々、族々、各家相集、國政を以て、下り、不カラシ。又
 共和政治、其地貴賤を論じ、人望の属は、者も立。

主長ト云民ニ同收斂ト云。政事を以てしむるに
或立君特裁ト云。魯西亞支那ホの如き。政治を以てす
ト云。又立君定律ト云。國ホニ王ナリト云。一定の法
リ。君の權威を抑制シテ。歐羅巴の諸邦政制度を用
テ。其の多ク。洋學家の或。其法方の大概を以て述
ベリ。

古今租税法弱事

一 田圃不租税何とも。宗國の通規ナリ。人君是を受テ天代リ。人
を養ふが故に。所以に之を耕耨の勞農支不在ト云。其切節
造化の力を以て。故不諸民且も人主の奉給も。其理あり。

皇朝上古租税の法も皆爾なり。人皇ノ代

崇神天皇十二年秋九月始。授人民更耕調役。以謂男之
調女之。年水調也。日本紀に見ゆ。海の調。今の大
代の如。年水の調。後の年作布の類ナリ。成國圖
に。上古の儀。其詳を以て。抑氏田不租。其
。郡縣の法封建の制。前件不記。以て。古今沿革
法の強弱。方今の見合。其。其大
と時々。三十七代

孝德天皇の御宇。大化二年詔曰。初造戸籍計帳。班田收授
之法。凡五十丁為里。每里置長一人。掌按檢。課殖農桑。
禁察非違。催賦役。凡田長三十步。廣十二步。為段。十段為

町。阪租縮二束二把。町租縮二十二束。見ゆるも。白雉三年の條より。班田版記。凡田長三十步為阪。十段為町。段租縮一束半。町租縮十五束。はるる諸國檢地の上。大化の御定。御改正あり。租税を減せし見ゆる。

但縮一束より。人の片手三握を一把。拾二把を一束。はるる。三十六握を束。

又調庸の法も。大化二年詔曰。凡絹絶糸綿並直御上。所出田一町絹一丈。四町成疋。長四丈廣二尺半。絶二丈二町成疋。長廣同絹布四丈長同絹絶一町成端。別収所之調皆布一丈二尺。凡調副物。監費亦隨御上所出。備令義解口。段地獲縮六十束。束縮畚得束五升。即於所者

須得五百束也。ゆら一段の縮五十束。其摺立束二石五斗あり。其内より租縮一束半。其束七升五合。年貢と納は。三十分一。尚輕き年貢なり。天智十二代

文武天皇慶雲三年。遣使と道。始定田租法。町十九束。續日本紀。白雉以来九十餘年の間。少くも異同。大室の改租縮二束。阿れも。大凡壹町の取束七斗五升。絹一丈絶二丈。二把より。布一反の御取圍あり。

但一反三百六拾步の地より。束二石五年を得る時。五合摺より。和五石なり。右坪數より。除けり。一坪叔壹升三合八勺八分。余小當る。む上古々田地の餘步等も多。肥後手入の缺く。右様出束たり。方今何程

豐作^{ホウ}作^サりしも、園^イ採^クの^ハ坪^{タテ}州^チ教^{キョウ}を^シ事^シたり。

其後四十三代

元明天皇和銅七年官着^{ツク}不^レ絹^ノ純^ハ六丈^ニ為^レ足^シ調^ノ布^ハ四丈二尺^ニ為^レ端^ナ庸^ノ布^ハ二丈八尺^ニ為^レ端^ナ。中^ノ續^ハ日本^ノ紀^ハ不^レ少^ク也^ナ。大化年中^ノの^ノ御^ノ定^ムと^シ。調^ノ庸^ノの^ノ寸^ハ尺^ハを^レ僧^ノを^レ減^ス九^ノ四^ノ十^ノ四^ノ代^ニ

元正天皇養老六年の官着^{ツク}不^レ公^ノ私^ノ出^テ舉^ル取^リ利^ハ十^ノ分^ノ之^ハ一^ニ也^ナ。續^ハ日本^ノ紀^ハ不^レ少^ク也^ナ。租^ハ稅^ハも^レ十^ノ分^ノの^ハ一^ニの^ハ公^ノ納^スり^也。尚^モ道^ノ七^ノ取^リ増^スされ^ルり^也。五^ノ十^ノ代^ニ

桓武天皇延暦十六年詔曰古者什^ハ一^ノ稅^ハ謂^フ之^レ止^中。三^ノ代^ノ目^ノ循^ハ項^ト表^ト作^リ矣^ナ。國^ノ家^ノ薄^シ社^ニ利^ハ農^ノ勤^ハ恤^ハ民^ノ隱^ハ是^レ制^レ令^ス之^日。田^ノ壹^ノ町^ノ租^ハ定^ム為^レ二^ノ十^ノ二^ノ束^ニ。其^レ後^ニ有^リ勅^シ處^分減^ス為^レ一^ノ十^ノ五^ノ束^ニ。見^ル之^也。

五十二代

嵯峨天皇弘仁式云々。上^ノ田^ノ壹^ノ及^テ地^子拾^束。中^ノ田^ノ壹^ノ及^テ八^束。下^ノ田^ノ壹^ノ及^テ六^束。下^ノ田^ノ壹^ノ及^テ三^束。凡^ノ公^ノ田^ノ獲^テ稻^ハ上^田五^束。中^田三^束。下^田三^束。七^合三^斗。不^レ當^ル。其^レ後^ニ六^ノ十^ノ代^ニ

醍醐天皇御宇延喜式云々。凡^ノ公^ノ田^ノ獲^テ稻^ハ上^田五^束。中^田四^束。下^田三^束。下^田一^束。凡^ノ弘^仁の^ノ頃^ニ。延^長承^平年^ノ中^ニ。過^シ令^テ輸^ス五^ノ之^ハ一^ノ。凡^ノ弘^仁の^ノ頃^ニ。延^長承^平年^ノ中^ニ。過^シ百^二三^拾年^ノ間^ニ。壹^斗及^テ不^レ付^ル三^斗三^斗七^合五^斗。後^ノの^ノ御^ノ取^リ簡^シ見^ル之^也。

但^レ右^上中^下下^々平^均下^々。町^ノ不^レ付^ル稻^ハ三^百三^拾七^束。東^半。以^テ摺^立束^拾六^石八^斗七^升五^合。以^テ五^合一^束三^束。



石と斗六升五合上納し給ふ。則一及斗三升七
合五升なり。弘仁式も同合。備皇より後
も上文华不流也。武事も次々盛んなり。將門
純友の逆徒東西不起り。國の武士私威を耀
す。皇の命を用ひ朝貢を怠り。諸庄園を押領し
租税の法を區くす。規制を成り。但領家より
肥後国菊池庄に二条對守前忠公の御封あり。其
民の口分の租を正下中男の調庸を二條殿へ納め
地民も菊池民の有也。是も依り二條家領の
下司職なり。

九十五代

後醍醐天皇の御宇。楠中將正成卿を。納めし。其
納り。其の。隣りの百姓子承。山林造り居餘りたり。或書不見。其頃の租税推し知る。是利
軍家の時代に至り。四六の法を立。十分の四を
公納致す。六分を百姓作極。其法。申傳ふ。太平
記康寺文書。小義詮。軍の時。執事入道道朝。政
一斗田一段の稲五拾束。以米二石五斗の内。二束半
以米一斗二升五合を守護。納め。残四十七束。米
二拾二束七分五厘。以米一石二斗八升七合五勺を
領家之を取り。二拾二束七分五厘を農民得。其法を

と納九分二厘五毛中。百姓他徳四厘七厘五毛不當なり

但以頃の官掛方寸深二寸五分今掛九合六夕九

文餘不當なり

其後五元亦續き文禄四年豊臣秀吉天下統一統の後九分

象法則小天下の租税三分一地頭取之。今令二百姓自可

取之。見ゆま。足利將軍家もも少くもたれた。

上古の租税を比し。堂及び月米七斗五升八合とあり餘

年貢強し。彼是十倍乃取増あり。論古。遠く浦調の

法も廢絶し。米もとり取り取も事なれち。取箇の強

くも。其謂さふ。ゆめなれ。夥補取増なり。

徳川將軍家も後り。享保年中色取換見始り。天

下一統御所所の令と都。五五五五五五の法定なり。取箇附
方等と。換見の部。見。具詳か。を。知る。

租税名目事

日本紀より年貢の事を多知加良とす。是も田力少く民

の力を以て作り。厚穀を必とす。又大知加良とす。是

も右より正税なり。都。田租の事をち。年貢

司。役人。主税。ち。例。事。なり。

古事記より御調書なり

延喜式より地子書なり

東鑑より年貢或は乃貢す。所不見。又濟物書

日次記す。物成とす。一
 徳川將軍家より。取箇成箇物成。又関東より。年貢の
 内夏納る。夏成。且又田畑の年貢を。途へ。其外
 諸役運上。其加。永分。一等の類。物成。智。事。一。
 支那より。田賦。秋賦。租税。田税。田租。年貢。通
 税。子地。税。通考。見。又。朝鮮。年助。西洋
 中。智。事。由。一。

國号郡名御名之事
 皇國の上。國號。左。如。

葦原中洲 水徳國 豊原水徳國
 夜麻登 秋津島 師本島
 虚見倭國 浦安國 細戈千足國
 倭 和 和奴國
 礮敷盧島 大倭國 日本
 比能母登 野馬臺 大日本豊秋津洲
 大八島
 右大八島より。淡路洲 伊豫二名洲 筑紫洲 壹岐
 洲 對馬洲 佐渡洲 隱岐洲 大日本豊秋津洲。一。
 土地の廣狹を論。左圖の如く海水の廣を以て。
 國を分る。是より。

面より日本紀不見也。後世の如く際やの事とせり。古事記より厚真の石城國造常陸の仲國造とあり又日本紀より春日國萬葉小吉野國初瀬國とあり。如く割度通勢第小百四十四ヶ國と記せり。旧事記の國造水記と據るより信守と諸後より一國を二つに分け又二國を一つに分けし。御世より増減あり。廿一代
 嵯峨天皇弘仁十四年越前守を割く加賀國を置り。日本六拾六箇國。二島を合して六拾八ヶ國と定り。此は厚原國増減あり。
 五畿七道に分らるる事其略詳をらん。
 崇神天皇十年四道將軍を發し四方を平らけ大彥命を

北陸小遣。此邊川別と東海小遣。占備津彦と西海小遣。丹波道主命と丹波小遣とあり。
 天武天皇十四年九月乙亥及畿内東海東山山陽山陰南海筑紫小使者を遣し人夫を授け百姓の消息を察せし。西海の石分明なり。
 文武天皇の御宇。遣明經博士於六道。溝割令分註。除西海道より七道の名。國史不見。是を始とす。
 郡名を類聚。國史國造の條小。延曆十巳年三月詔曰。昔難波朝始置諸郡あり。併諸書多し同く。延喜式より五百九拾郡。和名抄より五百九十二郡。神皇正統記より五百九十四郡。拾效抄より六百四郡。下鴨社所傳輿地圖より六百

三十一郡。太子傳子。五百七十八郡。和漢三才圖會云。六百
二拾二郡。はれ。方今も六百三拾八郡。をり。力等。
一 郷名和名抄。不詳。をれ。今世不用の儀。事。長。を。略。し。

御勘定所国分之事

一 上古より。建政の関。東。三十三箇國を。關東。より。改。東。より。し。
關。西。三十三箇國を。關西。より。唱。し。處。徳川將軍家。より。箱根
の關。より。東。常陸。道。八箇國を。關東。又。關。八州。より。唱。

- 關東より
 - 武藏 相模 上野 下野
 - 上總 下總 安房 常陸
- 外小
 - 伊豆 甲斐 出羽 陸奥

以四箇國を。加。十二箇國を。關東方。より。

上方より

- 山城 大和 攝津 和泉
- 河内
- 近江 丹波 播磨

以三箇國を。加。五箇内。三州。より。

上方。關東。より。二。つ。分。時。右。拾。二。ヶ。必。を。關東。より。云。其。外。の。国
々。東。海。道。箇。中。國。箇。四。國。西。國。箇。も。都。より。上方。より。唱。より。
事。より。

御料所を。國。左。の。通

- 紀伊 尾張 伊賀 志摩 備前 越中 若狹
- 因幡 伯耆 出雲 周防 長門 所波 土佐

沓路 沓後 大隅 薩摩 壹岐 對馬
石二拾箇國中御料所なり。其外の國にても。亦も御料所
有らざり。

貫高の事

一 上古より位田職田を始。士の知行等田畑の町敷を以て。賜たり
也。此条時宗時代より。足利將軍家の頃。六貫一疋の田地
の坪數千坪を壹貫とす。六千坪六貫の地とす。軍役一騎を勤
る疋とす。故に士の知行を何拾貫と留。夫より村方も。何
貫の村と留。其高と云。名目始り。今民間の詞
也。田地百坪を百把植ると。百目苗とす。千坪を千把植る

乎。一貫目苗とす。以遺風とす。今も武州相州上州辺に
無稀に貫高村あり。多し無反なり。右貫高は。水高は。
徳川將軍家に至る。右高は。直にす。一貫も。石高五石替。不致
は。定法也。托も。白洲久良岐郡松田村。貫高の割付なり。一
貫文も。高。石替。不積り。鎌倉の村。鑑帳に。延宝。二寅年。御
代官成瀬五左衛門の節。貫高。貫文も。石高壹石八斗七
升。又。石高。石八斗八升。その高。附あり。村の區。なり。
一 餅件。不泥。以。右。及の坪數。二百六拾坪。右。六千
坪。壹町六反二百四拾坪。軍役の勘定。六ヶ。鋪。故。尊
氏公の時。壹反三百坪。不直。二町坪。六千坪。壹騎
役勤。様。不。なり。

田代大六

卷之二

水高事

一 水高事。足利將軍家時代。關東筋水樂錢多く。取納の
 代り。水樂錢を年貢と取立。上田一反水何百文。中田一反水何
 程。又一反水高を極。其水納過ぎ。一村の高を。始
 り。故水高を。關東より尾州辺に限り。上方を。必ふ。貫
 高は。日本國中行はる。法少。格別。誤違ひ。事。是れを。
 方今。勿論。古承。水高。貫高。混雜。事。兩名。如く
 俗流。辨。曰。武家系圖。不相。換入。道平。高時。の條。下。領地。二
 拾八萬。二千貫。當知行。百四十萬。五千石。見ゆ。五石代。
 一 北越。軍。於。日。二萬貫。今云。二。壹萬貫。今云。一。是拾石代。

臨尻石直と書

一 後奈良天皇。天文十九年。天賜。三州大濱。五拾
 貫文の。承地。其。領。其。收納。五百石の地なり。
 又曰。天止の石直。事。壹貫。九石。西國。八石。
 一 固本録曰。水壹貫。文。五石。掛高。五石。夫。五石。免。
 掛。二石。五斗。古承の。定。仙臺林氏。著。物。四貫文。四拾石也。七八貫。之。八
 拾石。是。五十貫。五百石。百貫。十石。五百貫。九千石。
 千貫。一萬石。

一 玉露載曰。近年。仙臺の。知。百貫文。他家。百石。一。
 常世雜史曰。錄。倉松。岡。康慶寺の。御朱印。百拾一貫。

二百八拾文とあり。當時の收納五百石のり。

右の通天止文祿の頃。石高始り。時令。永高貫高。一貫を高拾石。五石。積り。馳。定法。徳川將軍家。移り。慶長年中。伊奈備前守。檢地の節。永一貫文。五石。納。其後。秘法。止。右の。永一貫文。高五石。代。定法。今。物成金。止。永。高。結。五石。代。不。致。復。存。儲。永。穀。價。賤。永。樂。錢。一貫文。五石。納。中。古。永。納。五。合。摺。積。五。石。五。斗。今。仰。帳。厘。付。不。知。永。一貫文。五。石。五。斗。代。百。五。十。年。以。来。永。價。高。故。實。年。直。五。石。五。斗。半。減。一。石。壹。石。二。斗。五。升。併。近。年。の。直。段。一。石。壹。石。代。也。

安永の頃。古法を廢。石定法を用。事。但右永樂錢。関東。多。應仁。兵。乱。鑄。錢。司。の。官。廢。通用。和。錢。明。朝。砂。金。廢。錢。と。文。易。國。用。辨。應。永。年。中。唐。船。般。相。川。三。崎。浦。漂。着。籬。倉。の。管。領。足。利。左。兵。衛。督。滿。兼。船。中。を。檢。換。永。樂。錢。數。千。貫。を。積。載。由。京。都。へ。許。新。右。軍。足。利。義。持。の。下。知。萬。兼。小。時。氏。關。東。筋。永。樂。錢。多。く。其。後。天。文。十。九。年。北。条。氏。康。下。知。關。東。專。永。樂。錢。字。通。用。是。不。久。永。樂。錢。關。東。止。然。關。西。集。り。た。事。

西。集。り。た。事。

石高之事

分高	出目高	無地高	野高
海高	山高	京高	楮高
色高	除地高	除高	込高
延高			

一 前件お記に如く。上古之士の知行。田地の町敷を以て。是を發せり。村高も其村の家敷を以て。何百何拾下の村に唱ゆ。所京都将軍家の頃。貫高永高始り。其後豊臣氏の時代石高始り。村方年貢納納過ぎぬ。何百何拾石の村にや。士の知行も。以て石高を用之。事おむ。利夫と。若納も相止。か合摺の積り。納小。尚右極納過ぎ。村高。其石盛重付等。檢地の

部お委鋪記に

一 分高。石高の事おむ。惣村高を分年。唱へ。上中下位。訣の節。及別を小行。小書き。高も付。時。何拾何石。認事。高文按。家忠日記。天正の始。知行何貫。同十八年。御家人。米地を賜。何万石。見。是全石高。始。見。成形圖。天正十六年。豊臣太閤。昔先。島津家。被罷。知行目録。天正の頃。石高始り。事。

一 出目高。古檢の村高。總令。千石の所。出入。新檢。千三百石。古高。唱。三百石。

一目高し智事なり。是字換地出高し也。

一 無地高し。有未上中下の及別不石盛を執事付たる所。是地の割付高ふ否の分を重地高し。是も石盛及別地なる村をさき事なり。又作毛の外景指茶法多し。是も積りたる直し。高し。結い村高を増す所あり。是等の類も。小物成高し。智事也。稀なり。無地高し。所あり。借地高し。大概高内。いなり。夏むれ也。右様四木の類。高し。結いたる分を引物なり。立。村高の取書。何程無地高し。見たり。の。池。事なり。又古換の村方。新換入子細あり。古代の石盛なり。新換の方低くなり。及別を増減。高減。多し。時。村高を容易減。地所なり。石盛違ひの分。無地高し。智。高内

引ふ。是も。河故。無地高し。類なり。

一 但無地高換村親高の内。不相立居る。各別。村中辨高なり。百姓割合。合。負高。寺社高。村。負高の儀。出入。前無地高し。負高。類。向。寺社高。負高。負高の。寺社高。負高。

一 野高し。換地。及別。無。又野高。水。納。其。區。

海高を元和以後元禄の頃漢掘海草の所積を積り高不倍
後金銀取立一事を見えきり併海草の儀も何方と何方迄
境互別も有り固より漢業の利も不足の事れども中古
相改り海川を高不倍事停止せり方今何程の大漢阿る村
方やゆ役永運上と格別新規高入も相やふる由や。

山高と云ふ村中入會の山山縁等いふ山山高も昔年貢上納
ゆりふ勿論檢地の節及別を改め山縁の助成を以て併未
た後存も其村の免合を見合も高不直以事あり又村より別
檢を請古檢高不不足候も減り候も故山縁も何事不
付山高も清高不合置も村方より候事。
京高より檢地の節畑お仕立も京と尺繩ノや。壹束を

高三升。ほき短きと或升位も積り且京の大木も葉を
おき取事故右の束廻り不直積り立高不倍も事なれど
方今の檢地も其植物不拘らば其畑地の位不應。石盛付へき
昔申渡され古檢の村も格別新檢の村方京高も事
なり。是小依り山原等の空地も京仕立候も分高不倍も
石の當りも京年貢申付に。

一 楮高も京高同様三尺繩ノ壹束を高五升。ほき短き
を三四升も積り高不倍も事なり。是も京も楮も助
成多きの故高を倍も多し。是又京同様方今の檢
地も植不拘らば其地位相應石盛付も事。
一 色高も右京楮茶漆其外靑草々々真菰等の類

其昂の助勢を積り立。高小結をとり入。慶安年中信州の
檢地帳やう。野手系山手系やうの小物成小高を付小途高
不入。色高は一。免共四取不致一。四才高も。米高指高も
名目を顯し。又々も真菰菅高等も。野高と記たやうに
區せり。其節の役人の必し。記たやうに下り。

但方今村替知行度等の砌。定納小物成系。永小高を付。
小途高小結入たも。小物成高と唱せり。右色高も無。
小誤違しやう事なり。

一 除地高より。沖朱印地不續き。重き事なり。寺社境内に
田畑屋鋪等。無年貢の御證文あり。又之前々檢地帳外
書に。除地と記し。何れも高有無も除地なり。但寺社領

小高及別記やうにあり。又無高中及別々場所あり。及別々
あり。高やきも所被し。其高は。其除地高より下り。其
外の中年貢地も。見捨地なり。村々墓所馬捨場等も。除地
と心得たり。是も除地なり。檢地繩外見捨地也。
右の外道川溝堤等。檢地の時分。繩外見捨地不致。以分種
々何事なり。以水帳外書に。記置事なり。

一 除高より。寺社境内。或々神佛免等。村高小結。高内引
み立。年貢諸役を勤む高より。又年貢を納む。假令ど
五百石の村なり。二百石を諸役を勤。二百石を何れ子細あり
諸高掛物を除くも。除高より。除地見捨地なり。誤違下度
なり。



一 巡高よりし。御科所よりし。事や。私領村替の節。假令が
 旧領より高五百石。四取の村方よりし。其度三三五分取の村方
 より。五百石渡る時。旧領より取戻三拾五石減らる故。其村
 方より他村より。右不足の高七拾壹石四斗二升。合五百石の
 上。増へ渡りたる。巡高より勿論。厘の高下のより。以て渡り
 たる村方の。物成高掛。永物成詰より。高小。旧領より
 不足の分を。高より渡るより。巡高より。又か増地一萬石渡
 る時。下免の村方多く。平均三三取。不當り。物成戻三千石不
 り。五百石不足。以て。取戻五百石丈。の地を。増下。一萬
 石の掛。領高。壹万二千石餘り。渡る時。二千石余の。を。巡
 高より。有利。

但幕府より。三斗五升入。百俵。百石の積り。知り高も
 三五分取の定法なり。私領より。多分。三三五分物成か
 り。家より。四斗入。又々。四斗入。百俵。百石。小極。必
 なる。あり。一定。なり。石物成詰の儀。私領。渡。部
 を。合。見。下。

一 巡高よりし。御科所よりし。事や。知り渡の節。假令が高
 壹万石。物成詰。より。高より。替。する時。旧領より。三三五分
 取より。取戻三千五百石。納。たる。度。其。度。渡り。たる。領地。より。四斗
 取より。取戻四千石。より。先。知り。より。戻。五百石。相増。より。之。掛。領
 高一萬石の高を。減。する。事。を。成。する。物成。増。戻。より。掛。領
 壹万石。相渡。る。故。増。戻。五百石の高。より。二百五拾石。より。是。巡。延

高し。但萬石以下。物成詰。村替。故。知。割。掛。少。村。方。割。合。先。延。高。申。儀。事。新。字。但。石。延。高。仕。出。方。先。知。取。存。三。千。五。百。石。當。知。初。免。四。中。除。け。高。八。千。七。百。五。拾。石。成。臺。萬。石。内。石。高。を。門。残。高。千。二。百。五。拾。石。出。延。高。

及高之事

一 是。新。田。開。發。芝。地。等。地。味。宜。に。池。沼。等。の。植。木。堤。外。不。定。地。虫。水。の。度。毎。押。流。に。様。な。場。所。高。子。結。入。時。年。貢。外。高。掛。物。相。掛。り。石。俵。の。地。所。高。子。結。入。時。年。貢。外。高。掛。物。相。掛。り。

作。徳。薄。作。人。是。中。子。付。及。別。に。檢。地。取。箇。申。付。事。り。東。子。沼。地。等。多。及。高。場。所。是。高。大。付。小。村。持。添。希。及。高。場。一。村。相。立。た。所。由。何。に。追。地。別。高。入。可。成。地。所。見。取。場。不。致。置。後。年。相。取。高。入。前。件。の。通。高。入。不。成。場。所。及。高。不。事。り。利。

扱高之事

一 是。田。畑。無。及。別。少。村。高。を。檢。地。時。代。知。水。帳。出。何。高。を。付。一。村。一。扱。不。何。百。何。拾。石。極。少。村。稀。是。扱。高。云。

箇様の村方々都々定免や。十前の高より。取承高を
銘々持高。諸役等より取承過不掛動の事なり。永禄
年中江州浅井の幕下多羅尾某と云人浅井没落後同国
甲賀郡山中不隠れ始々村居を命。今多羅尾村。高
八百石餘の村方あり。高より少く反別少く所謂抗高
但抗高と云。唱をりや。幕府書物に於て此名目
なり。

日本國總石高之事

一 元禄元戊辰年日本國御科松原寺社領惣石高御政あり。
其後百四十九年を経く。天保七年又増減改あり。

皇國の惣石高左之通

山城

元禄高貳拾七萬四千二百五拾七石七斗外谷壹夕六也
天保高貳拾三萬百三拾壹石七斗六升八夕六也

大和

元禄高五拾萬四百九拾七石三斗八合六夕八也
天保高九拾萬千三百五拾壹石六斗九升壹合五夕六也

河内

元禄高貳拾七萬六千三百貳拾九石八斗貳升九合五夕四也
天保高貳拾九萬三千七百八拾六石六斗六升四合五夕

和泉

地方六段
卷之一

元禄高拾六萬千六百九拾二石壹斗二升六合四夕
天保高拾七萬戴千八百四拾七石九斗八升六合

滿津

元禄高三拾九萬二千七百七石六斗九升九合八夕七戈
天保高四十壹萬七千三百九拾九石壹斗二升七合

伊頃

元禄高拾萬五千四百拾石二合
天保高拾壹万九拾六石五斗三升六合

伊勢

元禄高六十戴萬千二拾七石四斗四升二合
天保高七拾壹万六千四百五拾壹石四斗九升二合七夕

志摩

元禄高戴萬六拾壹石六斗四升壹合
天保高戴萬千四百七拾石三斗九升八合

尾張

元禄高五拾二萬千四百八拾石五斗壹升八合
天保高五拾四萬五千八百七拾石七斗九升三合

桑何

元禄高三拾八萬三千四百拾三石四斗四升二合三夕
天保高四拾六萬六千八拾石七斗四升六合八夕

遠江

元禄高三拾二萬八千六百五拾壹石四斗三升六合五夕八戈

地方六段
卷之一

天保高三拾六萬九千九百五拾二石五斗七升五合壹勺八分

駿河

元禄高貳拾三萬七千九百三拾七石四斗七合二勺八分

天保高貳拾五萬五千三拾八石七斗五升三合九勺

甲斐

元禄高貳拾五萬三千一拾三石二斗七升壹合三勺

天保高三拾壹萬貳千五百五拾九石三斗六升九合四勺九分

伊豆

元禄高八萬三千七百九拾壹石二斗八升二合三勺五分

天保高八萬四千七百七拾壹石二斗九升三合六勺二分

相模

元禄高貳拾五萬八千二百拾石八斗八升二合四勺

天保高二拾八萬六千七百七拾石七斗五升六合八勺九分

元高千三百四十六貫六百七拾文

武藏

元禄高百拾六萬七千八百六拾二石九斗八升三合三勺九分

天保高百二十八萬五千四百三拾壹石六斗八合二勺

安房

元禄高九萬三千八百八十六石二斗壹升二合三勺

天保高九萬五千七百三拾六石二斗壹升九合七勺

上總

元禄高三拾九萬五千十三石九斗五升四合壹勺壹分

天保高四拾二萬五百八拾四石四斗五升三合四勺壹分

下總

元禄高五拾六萬八千三百三拾壹石壹斗壹升三合七勺四分

天保高六十八萬千六拾二石六斗三升壹合六勺六分

常陸

元禄高九拾萬三千七百七拾八石四斗五升八合

天保高百萬五千七百七拾四石九斗九合三分

近江

元禄高八拾三萬六千八百二拾九石七斗貳升七勺八分

天保高八拾五萬三千九拾五石三斗五合五勺壹分

美濃

元禄高六拾四萬二千一百壹石五斗三合

天保高六拾九萬九千七百六拾四石三斗二升壹合六勺六分

飛騨

元禄高四萬四千四百六拾九石二斗壹升九合

天保高五萬六千八百二石三斗九合

信濃

元禄高六拾壹萬五千八百拾八石七斗三升七合五勺四分

天保高七拾六萬七千七百八拾八石壹升七合六勺

上野

元禄高五拾九萬千八百拾四石四斗八合八勺七分

天保高六拾三萬七千三百三拾壹石六斗三升三合壹勺

下野

元禄高六拾八萬千七百戴石八斗壹合四勺六戈

天保高七拾六萬九千九百五石二斗七合三戈

陸奥

元禄高百九拾二萬千九百三拾四石八斗八升七合四勺五戈

天保高二百八拾七萬四千一百三拾九石五斗九合八勺八戈

出羽

元禄高百拾二萬六千二百四拾八石八斗三升九合四勺

天保高百二十九萬五千三百二十三石五斗一升壹合四勺五戈

若狭

元禄高八萬八千二百八拾壹石五斗二升二合四勺

天禄高九萬千三百八十八石八斗二升二合二勺

越前

元禄高六拾八萬四千二百七拾壹石八斗九合六勺

天保高六拾八萬九千三百四石八斗壹升九合八勺五戈

加賀

元禄高四拾三萬八千二百八拾壹石七斗七升

天保高四拾八萬三千六百六拾五石八斗四升八合七勺

能登

元禄高戴十三萬九千二百八石七斗九升五合四勺

天保高二拾七萬五千三百六拾九石九斗九升二勺壹戈

越中

元禄高六拾壹萬千石壹斗

天保高八拾萬八千八百六拾壹合八勺二戈

越後

元禄高八拾壹萬六千七百七拾五石七斗三升七勺七戈

天保高百拾四萬二千五百五拾五石三升五合八勺五戈

佐渡

元禄高拾三万三百七拾三石九斗壹升壹合

天保高拾三萬二千五百六拾五石四斗九升壹合

丹波

元禄高二千九萬三千四百四拾九石五斗四升七合四勺

天保高三十四萬四千三百六拾六石二斗六升八合六勺七戈

丹後

元禄高拾四萬五千八百二拾壹石壹斗八升二合

天保高拾四萬七千六百拾四石八斗四合四勺六戈

但馬

元禄高拾三萬六百七拾三石二斗三升五合

天保高拾四萬四千三百拾三石八升四合三勺

因幡

元禄高拾七萬七百二十八石二斗八升九合

天保高拾七萬七千八百四拾四石六斗二升四合

伯耆

元禄高拾九萬四千四百拾六石五斗六升七合二勺八戈

天保高戴拾壹萬七千九百九拾石八斗二升二合二勺八戈

出雲

元祿高二拾八萬二千四百八拾九石七斗三升九合

天保高三拾萬二千六百二拾七石四斗八升九合

石見

元祿高拾四萬二千四百九拾九石二斗三升五合

天保高拾七萬二千二百九石七斗六升八合三勺二戈

隱岐

元祿高壹萬二千六百六拾五石二斗三合六勺

天保高壹萬二千五百九拾九石六斗八升八合

播磨

元祿高九拾六萬八千五百拾七石五斗七升九合

天保高六拾五萬九千九百六拾四石八斗壹升三合三勺

美作

元祿高二拾五萬九千三百九拾三石七斗壹合

天保高二拾六萬二千九拾九石九升八合

備前

元祿高二十八萬九千二百二拾四石七斗壹升

天保高四拾壹萬六千五百八拾壹石八斗五升四合

備中

元祿高三拾二萬四千四百五拾五石六斗二升三合

天保高三拾六萬三千九百拾五石六斗壹升四合二勺壹戈

備後

元禄高貳拾九萬五千六百七拾八石八升八合

天保高三拾壹萬二千九拾四石九斗壹升二合

安藝

元禄高二拾六萬九千四百七拾八石三斗壹升

天保高三拾壹万六百四拾八石四斗八升九合

周防

元禄高二拾萬二千七百八拾七石六斗七升

天保高四十八萬九千四百二拾八石六斗七升七合

長門

元禄高拾六萬六千六百二拾三石六斗四升八合

天保高四拾萬四千八百九拾三石三斗三升三合

紀伊

元禄高三拾九萬七千六百六拾八石壹升九合

天保高四十四萬八千八百三拾七石七斗七升七合

淡路

元禄高七萬九千四百二十八石壹斗

天保高九萬七千六百六拾四石七斗八升四合

所波

元禄高拾九萬三千八百六拾二石二斗八升五合

天保高二十六萬八千八百九拾四石三斗二升九合

讃岐

元禄高拾八萬六千三百九拾四石四升壹合
天保高貳拾九萬五千二百二十石二升五升六合四勺

伊豫

元禄高四十二萬九千六百六拾三石二斗五升八合五勺四戈
天保高四拾六万九百九拾七石六斗三升九合三勺八戈

土佐

元禄高二十六萬八千四百八拾四石九斗七升四合
天保高三拾三萬二千拾六石五斗二升

筑前

元禄高六拾萬六千九百八拾壹石四斗二升
天保高六拾五萬七千七百八拾二石二斗七升八合四勺四戈

筑後

元禄高三拾三萬四千四百九拾七石七斗六升九合
天保高三拾七萬九千五百八拾八石九升七合八勺

豊前

元禄高二拾七萬三千八百壹石八斗四升八合三勺
天保高二十二萬六千八百八拾三石六斗四升五勺

豊後

元禄高三拾六萬九千五百四拾六石七斗九升壹合六勺
天保高四十壹萬七千五百拾四石二斗二升七合壹勺

肥前

元禄高九拾七萬二千二百八拾四石壹斗二升三合壹勺

天保高七拾萬六千四百七拾石七斗二升二合壹勺

肥後

元禄高五拾六萬二千八百五拾七石壹斗七升八合

天保高六拾壹萬九千九百二十石二斗九升壹合五勺

日向

元禄高三拾萬九千九百五拾四石五斗二升八合壹勺七勺

天保高三拾四萬百二十八石八斗六升壹合五勺九勺

大隅

元禄高拾七萬八千三百三拾三石四斗五升壹合

天保高無增減

薩摩

元禄高三拾壹萬五千五石六斗壹勺二勺

天保高無增減

壹岐

元禄高壹萬八千七拾二石八斗六合

天保高三萬二千七百四拾二石九斗二升壹合

對馬

國高無之

元禄高合貳千五百七拾八萬六千九百貳拾九石六斗四合五勺八勺

天保高合三千四拾三萬五千貳百六拾石貳斗六勺六勺五勺

差引

地方大要集

卷之一

高四百八拾四萬八千戴百七拾六石四斗戴升二合七勺

天保高增



地方大要集第一集卷之一

